

平成20年度第4回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成20年11月6日(木) 午後2時～4時30分
- 2 会 場 中央図書館会議室
- 3 出席者 協議会委員：11名(欠席1名) 傍聴者：なし
事務局：①図書館 中央図書館長 館長補佐兼庶務係長 館長補佐兼
調査係長 サービス係長 資料係長 小川西町図
書館長 上宿図書館長
②市史編さん担当参事
計8名
- 4 配布資料 資料については、省略させていただきます。
- 5 議題等
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館運営状況について
図書館事業等の報告と今後の予定について
(平成20年9月20日～平成21年1月31日)
主な内容
 - ・児童文学講演会(9/30) 松居直氏 参加者101人
 - ・ブックリサイクル(10/18) 14,215冊
 - ・児童文学講演会(10/25) 朝比奈美知子氏 参加者45人
 - ・平成20年度図書館利用者アンケートの実施(10/1～30)
 - ・民話講座1回～3回(11/27、12/4、12/11) 予定
 - ・福祉講演会(平成21年1/11) 予定
 - ② 平成19年度決算特別委員会について
図書館への質問は2件
 - ・これからの障がい者サービスの展開について
 - ・ブックスタートと本の配布について
 - ③ 教育委員の就任について
新任 森井良子 阪本伸一
委員長 伊藤文代
職務代理 吉田昌子
教育長 阪本伸一

④ 市史編さん室の設置について

平成 20 年 10 月 1 日から、中央図書館 2 階に設置する。15 名の調査専門委員と調査補助員が勤務する。

市制 50 周年を記念する事業であり、考古から近現代にわたる市史の編さんを対象とする。編集方針は多くの人々が興味を持ち、手にとって読んでみたいと思える内容とし、読みやすく調べやすいものとする。

図書館の蓄積された資料である、古文書資料、新聞切り抜き資料、写真資料、折り込み広告資料、パンフレット資料等を利用していく。

<報告事項についての質疑・応答>

委員：絵本の配布については疑問に思っている。どれほどの効果があるのか研究されていない。また 2～3 冊なので出版社も限られる。幅広い選書が行われているか疑問である。買い与えるというよりは、リストを配布し、図書館の本を借りてもらったほうがいいのか。

委員：どれほど利用されているか費用対効果の面でも疑問に思う。リストを配布しているがどのような反応があるのか。

事務局：昨年度は、リストを多摩・島しょ子ども体験塾事業の一環としてカラー版で作成した。3～4 歳児検診で配布しているが人気は高いようである。

委員：新しく出版される本については更新するか。

事務局：見直しながら更新するということである。

委員：だれが選定するのか。

事務局：図書館の担当職員である。

委員：ケイタイ小説をおすすめ本のリストに入れることは検討しているか。また純然たる小説なのかどうか基準はあるか。

事務局：ティーンズに受入れているものはある。ケイタイ小説の特徴は横書きである。子どもたちには読みやすいと言われている。また、名作をケイタイ風に横書きにして読む本が出版されているが、図書館としては、それらを小説ではない、とは考えていない。

委員：他市の図書館でリクエストがあつて受入れているいわゆる BL 本については、小平市ではどのように考えているか。

事務局：特に制限はしていないが、リクエストがあれば、他市から借りている。積極的に購入はしていない。

委員：他市には所蔵があるということか。

事務局：そのとおりである。

委員：江戸時代の春画・春本は貴重な当時の資料となっている。悪書とだけは言えない。

事務局：児童書の場合は、職員が目を通して選書をし、購入している。

委員：選書については、気を使っていいものを受け入れて欲しい。

委員：子どもの本、大人の本との区分けについてはどのように考えているのか。
大人の本の方に受入れてしまうと子どもに読まれないし、逆もあるが。

事務局：境目の本はある。まず、大人の本の方に受入れてからティーンズコーナーに別置している。

委員：小さい時にいいもの、きれいなものを見せておくことは必要である。

委員：市史編さんの基本方針であるが、読みやすく親しみやすいと言ってもなかなか難しくなりがちである。概要版を出す予定のようだが、小学校の副読本のようなものはできないか。また本体のページはどれくらいになるか。

事務局：小中学校の先生方の協力も得て、副読本になるものを作っていく考えである。本編についてはまだはっきり決まっていないが、各編 1000 ページ程度と考えている。今回は民俗編が独立している。田無市史はストーリーがあり、分かりやすいのでその手法を取り入れたいと考えている。

委員：今までは文献資料と民具がばらばらであった。今回は保存民具、発掘品、絵画資料、文書、聞き書きを合体させるので、良いものが出ると思う。

事務局：図書館の横に民具庫があり、テーマ別等見事に整理展示されている。この資料を利用しながら、スタッフといいものを作りたいと意気込んでいる。

委員：ボランティア組織の運営とあるがどのようなことか。

事務局：すでにいろいろ活動されている、例えば「民話の会」や公民館で小平の歴史を勉強しているグループ等、市史編さんは正に市民参加を考えている。

委員：情報ボランティアの活用とは古文書解読の方たちか。

事務局：そうではなく、図書館の情報ボランティアとして活動している方たちである。様々な地域の情報をデータ化していただいている。もう、かなりの情報量が蓄積されており、それによりホームページの充実を図っている。小平の歴史や文化、地域情報を市民の方に発信する研究を進めている。

委員：シニアネットクラブの方が中心なのか。

事務局：そうである。

委員：デジタル情報か。

事務局：デジタル情報でデータベースを作っている。紙ベースだけでなく、図書館のホームページで情報を発信できるようになる。図書館ホームページへのアクセス数を見ても、地域資料のデータベース化は重要である。

委員：DVD版は一般書店で販売するのか。

事務局：図書館等での販売になると思う。

委員：委員会としても市史編さんを応援したい。成果を期待している。